

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	イベントメディア業界研究 2	
科目基礎情報					
開設学科	コンサート・イベント科	コース名	全コース	開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位			授業形態	講義
教科書/教材	教科書はなし、必要に応じてプリントを配布する。				
担当教員情報					
担当教員	樽林 史章		実務経験の有無・職種	有・音楽ライター	
学習目的					
若いうちに聴くべき幅広い音楽ジャンルを歴史を紐解きながら紹介し、現代のJ-POPに繋がるプロセスを理解する。音楽への興味を深めるべく毎回既存の音楽素材を紹介し、その音源に繋がるルーツを探る。サウンドの種別を理解することにより一流の音楽家とも渡り合えることを理解させ、自発的に新しい音源を模索できるよう、音楽を聴くことの楽しさを伝えていく。現代の音楽が過去の音楽からどのようなつながりを得て構成されているかを解説することにより、楽曲に取り入れられたリズムやコード進行がどういった意図で組み込まれたものなのかを理解していく。作品研究を行うことを学習目的とする。					
到達目標					
世界のポピュラーミュージックの歴史を習得して、音楽業界に通用する人材へと育成する。およそ60年のポピュラーミュージックの歴史を大局的・俯瞰的に説明する。学生の関心が高い音源がどのように成り立ったかを解説し、音楽の深い部分を追求できるような業界のプロとなる。また様々な楽曲に触れることにより興味を持てるジャンルを増やし、学生の音楽に対する視野を広げることも目標のひとつである。視覚的にだけでなく聴覚的に音楽と向き合うことにより、より研ぎ澄まされた感覚で音楽と向き合うことができる。すべての楽曲にルーツが存在することを理解し、自発的に作品研究ができるよう、音楽に対する意識を高める。					
教育方法等					
授業概要	この講義では主に音源試聴を軸とし、講師の説明と現実がリンクする内容を提供する。コンサート・イベント科の学生は興味のあるアーティストに携わる仕事を望む傾向にあるため、興味や関心の幅を広げることによって就職先の視野も広げる。この講義を経て学習内容をふまえて音楽の歴史に精通する人材となる。				
注意点	主に板書と配布する資料を中心に講義を進めていくが、大人数での講義のため質問がしづらい可能性がある。そのため、講義の最後には質疑応答の時間を設け、学生の理解不足を解消するようにする。授業時数の4分3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	80%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	J-POPの誕生		日本製のポップス・J-POPの誕生について		
2回	J-POPという言葉が持つ本来の意味		J-POPの語源について、-POPの成り立ちについて理解する		
3回	J-POPと歌謡曲の違い		歌謡曲というジャンルについて、J-POPが受けた海外からの影響とは何かを知る		
4回	J-POPとはどんな音楽だったのか		アーティストの視点でみるJ-POPとは…1980年代から1990年代に活躍したアーティストについて知る		
5回	ニューミュージックというジャンル		海外ロックに影響された音楽性と、なお影響を残すフォークソングについて理解する		
6回	作品検証（1）		ボサノヴァなど琉球音楽など、ワールドミュージック的サウンドを持つアーティストの作品検証		
7回	作品検証（2）		1990年代の一大ブームを席卷した作品の作品検証		
8回	渋谷系という言葉		日本のポップスの伝統を受け継ぐ「渋谷系」を理解する		
9回	音楽誌から見る90年代の音楽シーン		1990年代に発売された音楽雑誌から見る時代背景を知る		
10回	昭和歌謡について		昭和歌謡に学ぶ「歌詞」と「曲」の関係性		
11回	昭和歌謡における「ヒット曲」		ヒットチャートから見る、ヒット曲の定義を知る		
12回	歌謡曲とは？演歌とは？		日本独特の音楽ジャンルについて学ぶ		
13回	作品検証（3）		どんな音楽を歌謡曲というか、歌謡曲のヒットチャートを年代別に作品検証		
14回	作品検証（4）		どんな音楽を演歌というか、演歌のヒットチャートを年代別に作品検証		
15回	まとめ		全体のまとめ		